

宮城学院女子大学 支援室サポーター

2024年度 活動報告

作成：2024年度支援室サポーター
尾形優名 佐藤永佳 佐藤凜

活動内容

「大学生活で困っていることがあれば、お互いに助け合っていけたらいいよね」という気持ちを大切に活動しています。

おもに昼休みに、ランチやお菓子をつまみながら、研修会や活動の相談・報告会などを開催しています。

無理のない範囲で活動に取り組む中で、多様性の理解とともに自身のスキルアップを目指しています。



メンバー構成

- 1年生 5名
- 2年生 2名
- 3年生 10名
- 4年生 2名

⇒2024年度 19名

特別支援室スタッフ 2名
(主任・コーディネーター)

メンバーは随時募集
しています！！



2024年度の活動

- 車いすミニ研修
- 筆談ボードの案内掲示作成・配布
- 視覚障害学生のサポート
- お茶会
- ワーキンググループごとの活動

(GW発言カード作成WG・活動まとめスライド作成WG・報告会お茶会準備WG・バリアフリー状況調査WG)



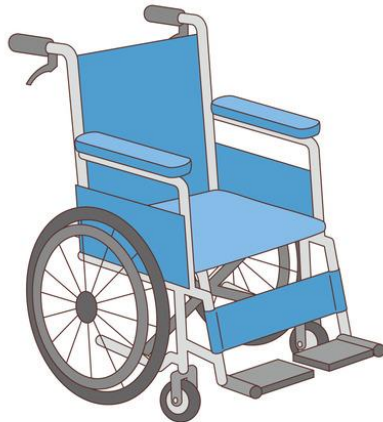
おもに昼休みに、講義棟やセンターの会議室で実施しました。

車いすミニ研修

配布された車いすの資料を見ながら、部位の名称を確認し、その後、実践に移りました。

段差がある箇所の乗り越え方やエレベーターでの乗り降りの仕方を学びました。車いすを押しだけでなく、自分も乗って押してもらうことで、乗っている人の感じ方を体験することができました。

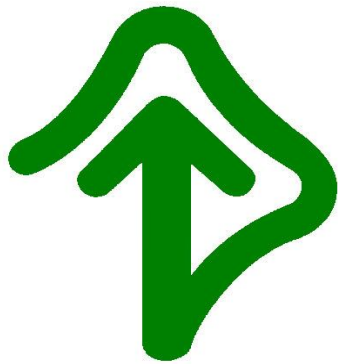
実践後、各自、自宅等で動画教材を視聴し復習しました。



学内バリアフリー状況の調査

昨年度は、学生課や保健センター、各学科の副手室や食堂など、学生がよく使用する窓口の筆談ボードの設置、利用状況についての調査を行いました。

それをもとに今年度は、筆談ボードを案内する三角ポップやポスターをデザイン・作成し、どの窓口でどのような掲示を希望するかを調査し、どこに配置したら見やすいかアドバイスもいただきながら、学内に設置しました。



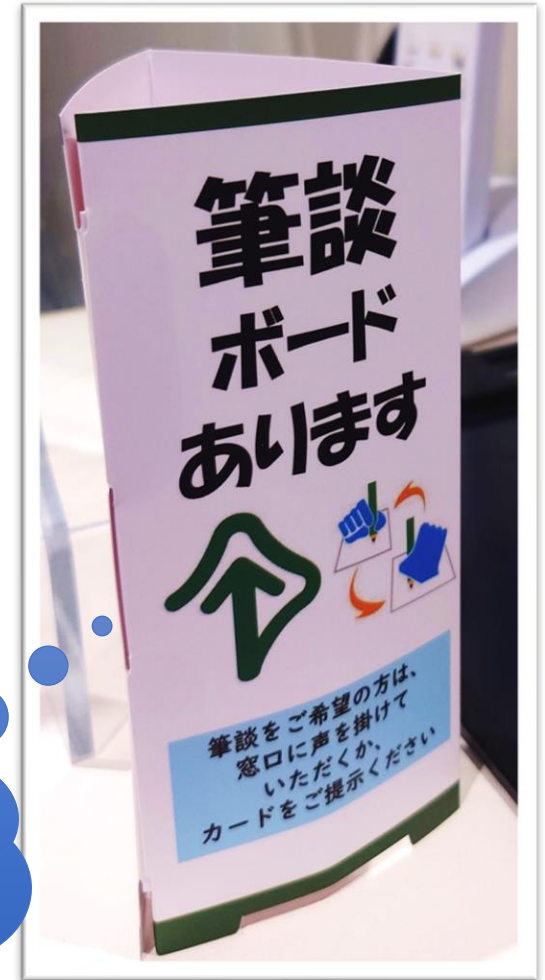
筆談マーク

筆談ボードの案内掲示

ポスターと三角ポップの2種類を用意し、
多くの人々が利用する窓口に掲示しました。



見かけたこと
ありませんか？



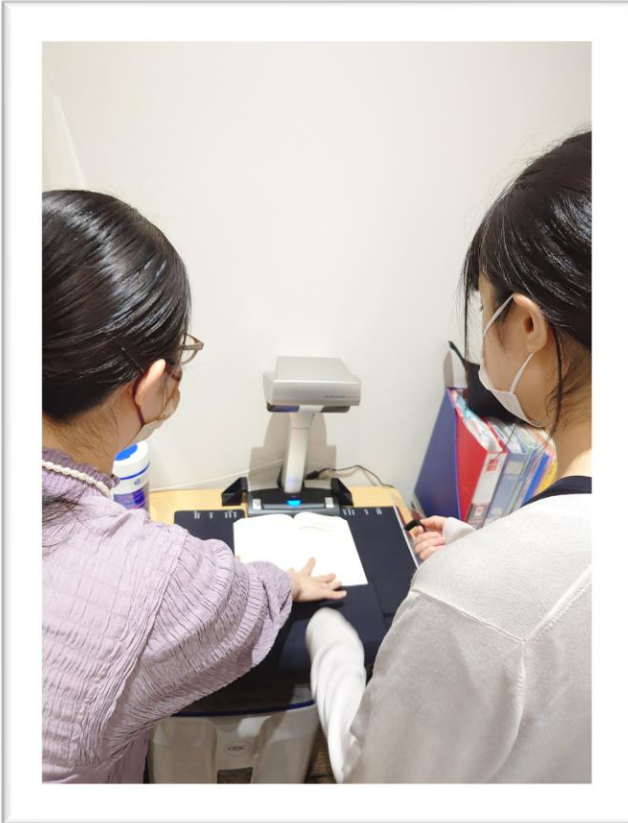
筆談ボードの紹介



こちらの写真が筆談ボードです。
耳の不自由な人や、言葉で話すことが苦手な人をはじめ誰でも使用することができます。
黒色のタブレット型、ノート型で中がホワイトボードのようになっているものなどがあります。
指さしシートを使用して伝えることも可能です。



視覚障害学生の情報保障



視覚障害のある学生の情報保障のサポートを行いました。

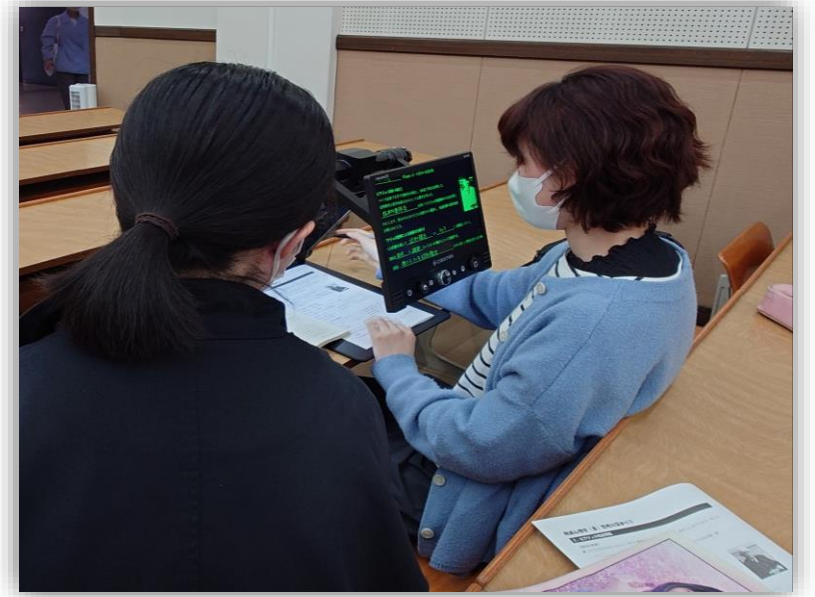
そのままでは見づらい紙の教科書を専用のスキャナでデータ化したり、共有のパソコンを使用する授業でアクセシビリティの設定を見やすく変更したり、課題をパソコンでまとめるサポートをしたりしました。

大学祭や健康診断など、行事の際にもお手伝いをすることがあります。

視覚障害学生の情報保障

視覚障害学生を直接的に支援しているサポーターにインタビューを行いました。

主に、授業資料を読むための拡大読書器の準備・片付けや、黒板の見えづらい部分を教えるといった授業内での支援を行っているそうです。



お茶会



支援室サポーターでは、研修や活動の慰労、交流を目的として、お茶会を開催することがあります。様々な学科のメンバーが活動しているため、他学科のことを知る機会になったり、同じ学科でもあまり交流のなかった人と親しくなったりできます。



今年はカードゲームを通して、お互いの意外な一面を知ることができました。今後も、このような交流の場を増やしていきたいです。



学科・学年問わずメンバー大募集中！ 私たちと一緒に活動しませんか？

学内を違った視点で見ることで視野が広がり、困っている人のサポートを具体的に考えることができます。

メンバーは自身の予定に合わせてながら、無理なく参加しています◎

コロナ禍緩和後、さまざまな交流会や体験会などの活動への取り組みが復活しつつあります。



<問合せはこちら>

学生相談・特別支援センター 特別支援室 （担当者：松田）

TEL：022-277-6276 Email：shien2@mgu.ac.jp

URL：<https://www.mgu.ac.jp/campus/support/shien/>